

2018～2019 年度



THE ROTARY CLUB OF KOSHIGAYA NORTH

越谷北ロータリークラブ

例会日:毎週水曜日 12:30～13:30

例会場:越谷市千間台東インペリアルビル 4 階

T E L 048(975)9898

F A X 048(977)3741

創 立:1976 年 5 月 11 日

会 長 : 吉澤晴雄

副 会 長 : 宮崎敏博

幹 事 : 中澤伸浩

会報委員長 : 近藤慎悟

第 2063 回 例会記録 No. 6

平成 30 年 8 月 22 日

司会: 渡辺 裕介 編集: 吉田 実

会次第

1. 点鐘
2. ロータリーソング「我らの生業」
3. ロータリーの目的 職業奉仕委員会
4. お客様紹介
三味線・卓話 コリーン・クリスティナ・シェムコー様
米山記念奨学生 邵 丹陽(ショウタンヨウ) 様
5. 会長卓話
6. ポール・ハリス・フェローの認証状授与
山本 正乃 会員
7. 幹事報告
8. 3 分間ロータリー情報
ロータリー情報・雑誌委員会 長谷川 真也 委員長
9. スマイル報告
10. 外部卓話・三味線演奏
コリーン・クリスティナ・シェムコー様
11. 出席報告

次回例会案内 平成 30 年 9 月 5 日

結婚記念・誕生日祝い

四つのテスト

イニシエーションスピーチ

浅野目 猛 会員

会長卓話



吉澤 晴雄 会長

皆様こんにちは。一時の猛暑よりはかなりましになりましたが、まだまだ暑い日が続いています。皆様の体調は大丈夫でしょうか?先週はお盆で休会でしたので、2 週間ぶりの例会となります。

8 月 5 日に開幕した、甲子園大会が昨日幕を閉じました。終わってみれば、前評判通り、大阪桐蔭高校が史上初春夏 2 回目の連覇と言う偉業を成し遂げました。それ以上に注目されたのは、言うまでもありませんが、秋田県代表の金足農業高校の快進撃でした。野球に全く興味のない娘が、今年は甲子園大会をテレビで観ていたほどですから、今年の 100 回大会はかなり注目を浴びた大会だったのではないのでしょうか。20 日(月)21 日(火)と佐賀県で開催された、高等学校 PTA 全国大会に参加してきましたが、同じ秋田県の角館高校の PTA 会長が、金足農業高校の PTA 会長



に代わり PR をしていました。大阪桐蔭のレギュラーメンバーは、各県から集められたスター集団で、中学のボーズ、シニアリーグ時代で日本代表に選ばれた選手ばかりに比べ、金足農業の選手は、全員秋田県からの選手だそうです。同じ東北、山形代表の羽黒高校の選手はほとんどが神奈川県から集められた選手でした。ちなみに埼玉県代表の花咲徳栄高校のレギュラーは東京 3 人、群馬 1 人、神奈川 1 人、兵庫 1 人、新潟 1 人、北海道 1 人、大阪 1 人と埼玉県民はベンチに 2 人いるだけでした。埼玉県民としては上尾高校が強かった時代が懐かしく思います。とにかく今年の甲子園大会は猛暑の関係で、いろんな評論家の人たちが、時期をずらすべきだ、ナイターにするべきだ、ドームでやるべきだとか、やめるべきだとか、好き勝手に発言をしていました。今後の検討材料はあるにせよ、高校球児の気持ちを考えない極論の話をするのは如何なものかと思えます。

さて、高校野球の話はこのくらいにして、ガバナー月信 8 月号の「コーディネーターNEWS」に掲載されていました記事を紹介いたします。第 2600 地区、佐久 RC 原さんが書いた、公共イメージに関する記事です。「ロータリアンの減少傾向に歯止めをかける為に公共イメージの向上を計ることが非常に大切だというのは存知の通りです。RI が行った少し古い資料によると一般の人に「ロータリーを知っていますか?」と尋ねたところ 40%は「聞いたことがない」と答え「名前だけは聞いたことがある」と答えた人も 40%、そして「ある程度は知っている」と答えた人が 20%でした。その 20%の人たちも実際は間違っているか勘違いをしているという結果でした。さて、その調査以降、本当にロータリーの事を知っている人が増えたのでしょうか? 自クラブの事で恐縮ですが、私たちのクラブは昨年度 30 歳代の会員が 2 名入会、今年度は 28 歳の会員が入会しました。しかし、新会員候補の人と話してみると、ロータリーの事はほとんど知らないのが現状で、公共イメージ向上はもっと行う必要があるという事を再認識しました。幅

広い広報活動でロータリーを知ってもらう事により、増強にも繋がるのかなと思います。今月は残り少なくなりましたが、増強月間です。メンバー 1 人 1 人が意識を持って増強に取り組んでいただきたいと思えます。

それでは、本日も宜しくお願い致します。

幹事報告



中澤 伸浩 幹事

(クラブより)

- ・ショウちゃんより河口湖のお土産を頂きましたので、皆様でお召し上がり下さい。ショウちゃん、ありがとうございます。
- ・第 44 回越谷市民まつりへの協賛金のお願いが届いております。
- ・浪江 RC より、年度計画書が届いております。なお、来週 8/29 例会には、浪江 RC より、泉田会長はじめ 6 名の会員の方がいらっしゃいますので、会員の皆様ご出席にて歓迎をお願いします。

(第 8 グループより)

- ・越谷南 RC より、越谷南ロータリーカップ開催のご案内が届いております。8/27 が開会式で、8/28 にかけて、しらこぼと運動公園競技場にて開催されます。

ポール・ハリス・フェローの認証状授与



山本 正乃 会員
おめでとうございます！

3 分間ロータリー情報



ロータリー情報・雑誌委員会
長谷川 真也 委員長

携帯電話で簡単にできるテキストメッセージは、ポリオ撲滅活動を成功させるカギとなるかもしれません。かつて世界中に広がっていたポリオの発症は、現在3カ国の一部地域に限られています。今後は、保健従事者が迅速にワクチンを提供し、情報を共有していくことが重要となります。携帯電話を使ったモニタリング方法について研修を受けるパキスタンの保健員、ロータリーが主要パートナーとなっている世界ポリオ撲滅推進活動では、連絡を強化するため、パキスタンとナイジェリアの保健従事者に携帯電話が支給されています。そこでは、1つのテキストメッセージが人の

命を救うこともあります。パキスタンでは、予防接種データを含む母子健康報告書を、従来の紙から携帯電話と電子モニタリングに移行できるよう、地元のロータリー会員が尽力しています。ロータリーの協力により、パキスタン政府、通信事業のTelenor社、データ管理のEycon社が、パキスタンの保健従事者に携帯電話800台以上を支給しました。今後、2018年までに合計5,000台を支給する予定です。保健従事者はテキストメッセージを中央サーバーに送信でき、ポリオ発症の疑いがある場合は、即座にパキスタン国立緊急センターに連絡できます。また、予防接種を受けていない子ども、拒否する保護者の有無、予防接種の実施範囲も報告します。同国では、5歳未満の児童35万人にポリオ予防接種を行うことを目指しています。パキスタンでは、従来の紙を用いた報告書に代わって、デジタル方式の報告ツールが使用されています。世界保健機関(WHO)の危機管理責任者、ミシェル・シーレン氏は、携帯電話の支給により、リアルタイムで情報を入手し、簡単にモニタリングできると話します。「携帯電話のおかげでポリオ撲滅活動は大きな進展を遂げています。綿密なデータをリアルタイムで記録し、すぐに共有できるので、正確さと有効性を高めることができます。これにより、政府やポリオ撲滅活動のリーダーたちも、必要な意思決定を戦略的に行えます」ポリオを超えて保健従事者は、携帯電話を使用して母子の健康に関するデータも管理しています。ユニセフによると、パキスタンの児童死亡率は世界でも非常に高く、出生数1,000件あたりの5才未満の児童死亡数は81件です。しかし、携帯やインターネットなどのテクノロジーでこの数を減らせると、パキスタン・ポリオプラス委員会のロータリー会員、アッシャー・アリ氏は話します。「地域社会の助産婦を含め、保健従事者は妊婦の経過を追跡しています。子どもが生まれると、健康記録を入力し、ポリオだけでなく、他のワクチンや保健・衛生上のニーズも記録されます」これにより、マラリア、結核、インフルエンザのような感染症



や、子どもの栄養不良や母体の健康状態もモニターできます。「乳児や母親に問題がある場合は、保健センターに情報をすぐに送信することで、迅速な対応が可能になる」とアリ氏。保健従事者がテキストメッセージで次の訪問日を予告できる、という面でも役立っています。携帯電話の拡散携帯電話の数は急上昇しています。世界で約70億人がもち、そのうち89%は発展途上国で使用されています(WHO調べ)。また、1日の生活費が1ドル未満の人でも、電話やテキストメッセージができるようになっていそうです。発展途上国において、携帯電話はどのテクノロジーよりも多く使用されています。ロータリーやその他の非営利団体でも、健康への取り組みを向上させるため、携帯電話を活用しています。グラミン財団の「モバイル助産婦プログラム」では、妊婦へテキスト(毎日)とボイスメール(週1回)を送信し、妊娠中、そして子どもが1才になるまで、母親にアドバイスを提供します。ユニセフでも同様のサポートを提供しており、妊娠中、そして子どもが2歳になるまで、栄養面のアドバイスをしています。携帯電話は、アフリカの HIV/エイズとの闘いでも大きな力となっています。英国の非営利団体「Absolute Return for Kids」では、テキストメッセージで、薬と診察予約日の情報を患者に連絡しています。ウガンダの保健省の mTrac プログラムは、UNICEF や他団体と連携したモバイル・データ収集ネットワークであり、より大規模に携帯電話を活用しています。そこでは、約3,700の保健所で働く3万人の保健従事者が、携帯電話で週次レポートの提出、アンケートへの回答、連絡事項の受信を行っています。2015年、Caduceus ロータリークラブ(インド)は、デジタルツールを用いて医療プロジェクトを支援しました。このプロジェクトは、8,000人以上に口腔衛生、高血圧、糖尿病の検査を行うもので、クラブは、コンピューターで伝染病の動向を監視するツールを作りました。これにより、政府職員は2、3回クリックするだけで、簡単に最新データを入手できるようになりました。

2016年、2年ぶりにナイジェリアでポリオ症例が出た直後、ロータリーとWHO職員は、現地のボルノ州北部で、従来の紙の報告方法に代わる携帯電話システムの報告方法を導入しました。この取り組みは、11以上の州に拡大しています。ナイジェリア・ポリオプラス委員会のボニフェイス・イゴムさんは、次のように話します。「従来の紙の報告書では不正確な情報が含まれる場合があり、深刻な状況を見落とす危険性もありました。しかし、携帯電話のお陰で、迅速に問題を把握し、対応できるようになりました」ナイジェリアでは、今年はまだポリオの発症が確認されていません。また、ナイジェリアでは、予防接種が行われていない地域を特定するために、携帯電話で利用できる地図機能を活用しています。保健従事者は、遠隔地から来た子どもの便をサンプルとして試験し、急性弛緩性の麻痺についてレポートを記録します。イゴムさんによると、この取り組みはボルノ州で始まり、現在3つの州に拡大しているそうです。ナイジェリアでは、今年に入って1,000人以上が髄膜炎で死亡しているのですが、その後、国の緊急予防接種の取り組みで、同じデジタルツールが使用されるようになりました。「携帯電話やインターネットのテクノロジーは、これまで出来なかったことを可能にし、最終的にはポリオを撲滅する助けとなる」と、イゴム氏。今ほど、このテクノロジーが必要不可欠であるときはありません。

外部卓話



コリーナ・クリスティナ・シュムコー様



今日の私の卓話のテーマ「三味線とロータリーと私」についてお話しします。

最初に曲を演奏します。この曲は私の作品です。テーマは、アメリカの花、私のホームタウンであるイリノイ州の花です。イリノイ州の中でも珍しい花で、アメリカ中でも世界中でも一番珍しいといえる、カンカキー川でもその島でしか咲かない花です。その花はカンカキーマロウ。日本で言う葵の花です。悲しいことにこの花は、50年間誰も咲くのを見ていませんでした。スイズラなど他の花が入ってきてしまい、この葵の花が咲かなくなってしまったのです。この花は珍しい宝物と気付き、もしかしたらまだ生きているかもしれない。もう一度咲けるようにするために頑張らねばと、ボランティアの人たちが毎年橋もないこの島に船で出入りし、毎年毎年春に火をつけて手入れを行い、もしかして今年こそはこの花の顔を見られるのではないか・・・という不安、希望をこの曲に書きました。

※三味線演奏「カンカキーマロウ 春」

今日は三つの点について話したいと思います。一つ目は、なぜ三味線に興味を持って研究しているか。二つ目、それはロータリーとどんな関係があり、得たものは何か。三つ目、将来の夢は何か、これから何をやりたいかについてお話しします。

三味線とは 2007 年に初めて出会いました。その前は西洋音楽の勉強をし、西洋の大きな楽器を一般的に演奏していました。その後作曲も始めました。始めはクラリネットやピアノ、バイオリンのために作品を作っていました。演奏だけだと本当の意味での音楽は理解できないと思っていて、作品を作ればもう少し深く音楽を理解できるのではないかと思い、作っていました。

私のいた大学には世界のいろいろな音楽がありました。その時は日本の音楽はなかったけれど、インドネシアのガムランとかインドのタブラなどの楽器もあり、初めて違う国の音楽と出会いました。

とても勉強になったのは、聞くと違う響きだなというのはあるけれど、それよりも何よりも考え方が異なっています。音楽の構成とか音楽の表現についての考え方が、西洋とは全く違う。それは私にとってとても面白いことで、なぜこのような考え方になったのか理解したい、研究したいと思いました。ガムランを使ったインドネシアの音楽もよく作曲していました。ただそれだけではつまらないと思って、日本のことも記憶にあったので、2007年に初めて日本に留学しました。

その時は6ヶ月間だけ、ソフィア大学で経験するだけと思ったけれど、三味線との出会いがありました。

私は、音楽は聞くよりも実際にやるほうが勉強になるとわかったので、できればやりたいと思い、6ヶ月間ずっと三味線の勉強をしました。三味線の何が一番面白いかというと、三味線は西洋音楽のようにピッチとハーモニーで音楽を表現しているわけではなく、音だけで音楽を表現しています。それぞれのひとつの音の違いで、違う雰囲気を作り上げます。ピアノは一つの音しかできない。だからピッチとハーモニーがメインになっているけれど、三味線は逆に、ハーモニーはできないけれど、同じピッチでも違う技法、違う弦だけで響き方、音色が変わり、表現が変わる。一つ一つの音の表現や音色の違いによって音楽に奥行きを持たせる。響きの差異により音楽を展開させ、音の彩りの変化を際立たせる。一つのピッチ、一つの音だけで表現できる楽器、それは西洋音楽にはない。とても面白い、これはすごい宝物だと思って、今までずっと三味線の勉強をしています。とても勉強になったのは、なぜ邦楽が大事なのか、これは実は邦楽だけの話だけではない。西洋音楽も含め、一つの音楽だけではつまらない。ひとつの絵を青だけで書くとつまらない。いろいろと色があるからいろんな表現できる。音楽も同じ。それぞれの民族音楽の表現が違うから、全く違う新しい色ができる。いろいろな花は、それぞれに独自の美しさを持っています。全ての花が薔薇化したり、菊化したりすることが花の世界の理想ではない。それと同じように、色々



な民族、地域によって独自の音楽作り上がっていることが、音楽の世界では一番理想ではないかという考え方がある。私はとりあえず邦楽が一番得意になっているから、その理想は何かを伝えていますが、西洋音楽を捨てたいのではなく、どちらでも作りたいと思っています。それが非常に美しいと思っています。

カンカキーマロウの話に戻りますが、みんなが頑張った。毎年毎年 50 年この花を見るために頑張った。そして去年、初めて咲いてくれました。それは一人の力で咲いてくれたのではなく、皆それぞれの違う力で手を繋いで、なんとかもう一度咲かせることがきた。すごく嬉しくてそのテーマについて曲を作りました。咲いてくれてうれしい、おめでたい曲です。

一人で演奏するのは楽しくないので、みんな手伝ってくれませんか？

※三味線演奏「カンカキーマロウ 夏」

次に、これはロータリーとどのような関係があるのか。簡単に言うと、ロータリーの力は人と人を繋げることです。ロータリーが面白いのは、たくさんの人が繋がっている。それぞれの人が同じではない。みんなの持っている力は同じではなく、みんなの過去も意見も同じではない。それぞれ一人ずつ違う。でも繋がっていて、それで力になっている。そのことに一番感動しました。それは、私たちの間だけを繋げたいのではなく、どんどん広げていきたい。日本だけに繋げたいのではなく、アメリカの人や世界の人々と繋がりたい。きっとそれは強い大きな力になる。一人では何もできないけれど、沢山の人が繋がれば、いろいろとできるようになります。それはもちろん、カンカキーマロウ、葵の話と同じように、一人では無理だったけれどたくさんの人が繋がって、何とかみんなの力で咲いてくれたことと同じです。

三味線の表現でも、一つの音だけでは面白くないから、いろいろな音の特徴が活かせないと力にならない。それは一番大事だと思います。私は変な外国人で、

いつもうるさくて、いろいろ変なことをやっても、ロータリーの人はいつも声をかけてくれます。是非繋がりたい。是非力になりたい。私も一人では何もできないので、それはとてもとてもありがたいと思っている。

私に何の夢があるか、何をやりたいか。もう博士で卒業して大学で教えている立場だけれど、将来にどんな夢があるか。私はただ教えることをしたいわけではない。教えるのも大学だけでいいわけではない、小学校でも高校でも教えたいけれど、それだけではない、それだけでは意味がないと思っている。私の本当の夢は、邦楽器がもっと美学の楽器になるように。邦楽器がもう一度当たり前の楽器になるように。江戸に戻ると、毎日みんな三味線が聞こえた。当たり前のように三味線があった。生活の中でも使いました。好きかどうかは別として、その楽器が存在することは当たり前だった。今とは言うと、ピアノやギターは当たり前の楽器だけれど、三味線は非常に珍しくなった。それは残念なこと。三味線は、非常にたくさんの表現ができる。特に日本の表現、日本の今までを作った表現ができる楽器なのに、もう珍しくなってしまうと、学校に行っても、みんな一度も聞いたことがない。生では見たことも聞いたこともない。それは一番残念だと思っています。

実は昨日、私は秋田県から戻りました。秋田県鹿角市の花輪に行きました。毎年のお祭り「花輪ばやし」があります。プロの方が演奏しているのではなく、その地域に住んでいる人しか演奏することができないものです。なので、子供の頃から楽器の勉強をしないと演奏者がいなくなってしまう。子供達は 5 歳からずっと勉強しています。赤ちゃんの時に子供達がリハーサルする時に一緒に来て、見たり聞いたりし、下手でもとりあえず参加している。だから大きくなると、みんな全ての音楽を覚えていてできるようになっている。その地域の全ての人は、どの楽器も演奏できます。好きかどうかは別として、当たり前のこととしてみんなができます。これは日本では珍しいこととされています。すごく素敵な街です。リハーサルの時に赤ちゃんも一緒に参加し



ています。こういうことがもう一度あって欲しいと思う。この地域でも、子供達は演奏する場所があるために、楽器に参加することになり経験することになる。それはとても良いことだと思う。

これからの目的ですが、今本を書いています。この本は、「三味線の魅力は何か」ということについての本です。これは西洋理論の見方ではなくて、三味線をベースとした目線で見えています。三味線はなぜ、三味線という名前であるのか。三弦の方が自然だし、三本の弦だからその方が正しいのに、なぜ「味」という字が入っているのか、からスタートして、幻の技法、三味線は弦の表現だけでそういう技法になっている、表現になっているということまで書いています。そういう見方から、西洋のように音階で勉強をしましょうとかではなくて、三味線はどうやって聞けばいいのか、何が面白くて何がこの楽器にしかできないのか、という点から本を書きたいです。誰でも理解できるように、今弾いた曲と同じように初心者のための曲も作っています。それは三味線の特徴を生かした曲で、ただの練習曲よりも現代的な考えも入れたいです。頑張ってます。初心者だけではなくプロのための作品も作っていて、CD もリリースされました。三味線は非常に現代曲が少ない。現代曲がないと三味線が生きている楽器に見えない。現代曲もすごく大事なことです。けれど、どの現代曲でもいいわけではなく、三味線の三味線らしさを伝えないと面白くない、ただのつまらない楽器になってしまう。そうなるみんなに興味を持ってもらえないと思っています。

最後に、私はいろいろな活動をしています。大学で教えるだけではなく、演奏会をしたり、明日は横浜でラジオの収録もします。放送は 9 月 15 日と 16 日になります。そういうことも頑張っていますが、いつも目的は、三味線の何が面白いのかを伝えたい、それはもちろん一人ではできない。色々な人と繋がらないと…。一人の力ではできないと思っているから、今までロータリーの皆さんからの応援があって、いつもいろいろ支え

ていただきありがたいばかりで、これからもロータリーのために私も何か力になれるなら、是非力になりたいと思っています。ありがとうございました。



姿勢もきれいです。



カンカキーマロウの花



胸に響きました！



「カンカキーマロウ(夏)」にみんな
手拍子で演奏に参加しました！



クリスティナさん、ありがとうございました。

■クリスティナさんの演奏は Facebook でも聴く事が
できます。



【越谷北ロータリークラブ Facebook】

(URL)<https://ja-jp.facebook.com/koshigayakit>
a.rc/posts

😊 スマイル報告 😊

- ・お客様クリスティナ様、よろしくお願い致します。
吉澤 晴雄
- ・クリスティナ様本日はどうぞよろしくお願い致します。
関森さん ひげのない顔も素敵です。
中澤 伸浩
- ・結婚祝ありがとうございます。
関森 初義・市川 洋和
- ・誕生祝いありがとうございます。世界平和のために。
大濱 裕広
- ・猛暑がぶり返してしまい嫌になりますね!体調管理に
気をつけましょう。
大熊 正行
- ・前回欠席 本日卓話たのしみにしています。
宮崎 敏博
- ・コリーン・クリスティナさん、ようこそ。
須賀 篤史
- ・残暑お見舞い申し上げます。
堀野 眞孝
- ・酷残暑御見舞申し上げます。
本間 孝
- ・出張のため早退させていただきます。
浅野目 猛
- ・前回欠席申しわけありません。
木村 二夫
- ・お客様 クリスティナ様 本日卓話よろしくお願い申し
上げます。日々奉仕の気持ちを大切に。本日もよろしく
お願い申し上げます。
新沼 徹

出席報告

会員数	49 名
出席免除者	14 名
出席者	36 名
欠席者	13 名
出席率	76.5%